■ ウッディ工房・嶋﨑健一社長に聞く

木材を長持ちさせる基本は風通しと手入れが一番

保護塗料は比較試験で「フォレステージ」に

福岡県を中心にログハウスの設計･施工を手掛けるウッディ工房の代表取締役、嶋﨑健一氏。木材を長持ちさせる秘けつは、気候風土に合った家造りと日ごろのメンテナンスだという。木材を長持ちさせるという観点から保護塗料に対しても意識が高く、製品選びに自ら比較試験を実施するほど。結果をもとに、いまではキシラデコールフォレステージを常用する。

ウッディ工房 代表取締役･日本ログハウス協会理事　**嶋﨑 健一** 氏

ログハウスという形で木材を扱うウッディ工房の嶋﨑健一氏は木材を長持ちさせることに気を使う。東大寺や正倉院など千年を超える時を経て残る木造建築の姿から、耐久性を考えるうえで重要なのは、「気候風土と文化風習」と喝破する。

気候風土と言えば、嶋﨑氏の地元である福岡県の北九州は亜熱帯に近い温帯。「高温多湿なので、木材は何もしなければ腐りやすい」（嶋﨑氏）という。

高温多湿の影響を避けようとする一つの建築様式は、正倉院のような高床式だ。床の高さを上げて床下の風通しを良くすることで、高温多湿の空気が滞留するのを防ぐ。

文化風習とは、年末やお盆に実施するスス払いのような節目の行事を指す。嶋﨑氏によれば、先人達は年中行事を行うことにより人を集め、そして人々の手によって建物のメンテナンスを行ってきたという。すなわち、年中行事を行うことによりメンテナンスが日常生活の中に組み込まれていたわけだ。

◎公共施設事例「水巻町えぶり児童クラブ」／ウッディ工房の「マシンカットログ工法」を用いた福岡県遠賀郡内の小学校学童保育所。公共施設では学童保育所のほか、駅舎や図書室などにも利用されている

◎住宅事例「松﨑邸」／「ハンドカットログ工法」を用いた北九州市内の個人住宅。内部にはペレットストーブを置いた2層吹き抜けの空間が広がる

◎レストラン事例「遊牧民」／「ハンドカットログ工法」を用いた福岡県古賀市内のレストラン。ログハウスというこだわりの形がブランディングにつながる

楽しめるメンテンス
生活に組み込んで継続を

年中行事が無くなりつつある今は、メンテナンスを楽しんで続けていく姿勢が求められる。嶋﨑氏は「日々の手入れを楽しくできるような条件づけ、例えばデッキの床下を収納スペースにし、物を出し入れする時にゴミ溜まりや腐朽していないかを簡単にチェックできるような構造にし、生活とメンテナンスを密接な関係に創意工夫するといい」と話す。

高温多湿の空気が滞留するのを避ける造りや日常生活に組み込まれたメンテナンス――この2つが、木材を長持ちさせるのには欠かせない、と嶋﨑氏はみる。そのうえで考える必要があるのは、腐朽やカビなどが原因で木材が劣化していくのを防ぐ木材保護塗料の選択だ。

木材を長持ちさせるのにこだわりを持つ嶋﨑氏は木材保護塗料を厳選するにあたって、複数メーカーの保護塗料を用いて独自の暴露試験にまで踏み切った。「紫外線や雨風などから、木材がどの程度守られるのか、メーカー試験と違って、さまざまな製品を横並びに比較する狙いです」（嶋﨑氏）。

木材保護塗料は嶋﨑氏が通常ログハウスに用いているスギの板材に塗って、有名塗料メーカー5社の暴露試験を実施した。結果、保護塗料としての性能の良さが際立ったのが、2社の製品。それまで用いていた保護塗料と、キシラデコールフォレステージ（キシラデコールの性能をそのままに低臭性を実現）の2製品だ。

保護塗料選びの視点
防カビや防虫も再認識へ

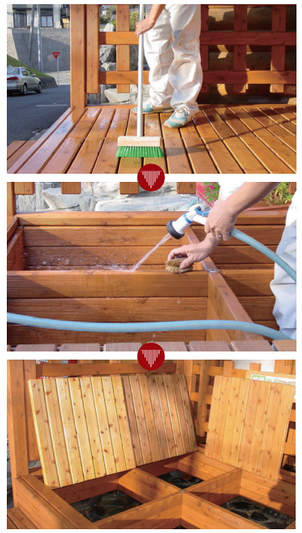
一方で、当時用いていた木材保護塗料の性能に偶然にも疑問を抱き始める。「自宅の一角に趣味の部屋として建てたログハウスには、この木材保護塗料を塗っていました。ところが、雨水の掛からない外壁の軒下部分や軒裏に大量のカビが発生したのです」（嶋﨑氏）。

独自の暴露試験やこの出来事を通じて、嶋﨑氏は「木材保護塗料では、紫外線や雨風での劣化防止を前提にするが、防カビや防虫という観点も大事」と認識するに至った。そして、その観点を併せ持つキシラデコールフォレステージを、木材保護塗料として3年前から常用し始めた。

メンテナンスの理想形を、嶋﨑氏はこう語る。「手の届く高さ地上1mくらいまで3年以内に木材保護塗料を塗り替え、その1年後にもう少し高い2m近くまでを塗り替える。そのあと、5～6年後にプロに総合メンテナンスを依頼すれば、地面近くの劣化の恐れが大きい場所は、3度の手厚い手入れが行われたことになります。居住者自身が手掛けることで問題個所を早期に発見できるうえ、建物周りの片付けも同時に行え、床下の風通しも良くなります」。

建物の耐久性を高めるには、設計者や施工者に加えて、建築主の意識も高めていく必要がある。日常生活の中にメンテナンスを楽しめるものとして組み込んでいく――そこに、建物を供給する設計者･施工者側の知恵と工夫が求められる。

ウッドデッキも風通しと
メンテナンスを意識した造りに



ウッディ工房オリジナル国産スギ製「システムウッドデッキ」にも嶋﨑健一社長の考え方は反映されている。板材を一定の間隔を開けて目透しで並べた床パネルは、それを受ける材との間に金具をはさんで3㎜ほど浮かせ、風通しを確保。日常のメンテナンスとしては、水洗いし、ブラシでホコリや汚れを取り除くことを勧める。時には取り外し可能な床パネルを裏返して用いれば、紫外線による表面の劣化や湿気による裏面の劣化の均一化を図ることができる。さらに床下は、全部収納庫として使える

木材保護のトータルソリューションパートナー

日本エンバイロケミカルズ株式会社

キシラデコール®
JASS18 M-307 適合品

'10 木材保護塗料部門 1位
読者を対象に、建材・設備メーカーの製品採用意向等をアンケート調査 2010年9月27日号

キシラデコール フォレステージ®

製造販売
日本エンバイロケミカルズ株式会社
提携先: AkzoNobel Deco GmbH

［お問い合わせ］
大阪　〒550-0023 大阪市西区千代崎三丁目南2番37号 ドームシティガスビル　TEL 06-4393-0054
東京　〒105-0014 東京都港区芝二丁目5番10号　芝公園NDビル3階　TEL 03-5444-9860
FAX 0120-124-123 www.jechem.co.jp ［キシラデコールに関する情報満載! ▶ www.xyladecor.jp］